

ACTIVO 通信

第 4 号 2017 年 11 月

ホンジュラス国金融包摂を通じた CCT 受給世帯の生活改善・生計向上プロジェクト

- 貧困者比率が 6 割以上と言われる中米ホンジュラスにおいて、自立発展的な貧困削減を目指しています。
- 現地でのプロジェクト愛称は ACTIVO です。このため、当プロジェクトの進める貧困削減モデルを、ACTIVO モデルと呼びます。これは、スペイン語のスローガンである「より良い生活のための貯蓄、金融口座、労働及び収入 (Ahorro, Cuenta financiera, Trabajo e Ingreso para la Vida Optimizada)」の頭文字をとったものです。
- スペイン語の ACTIVO には、英語のアセット(資産)とアクティブ(活動的)の両方の意味があります。この ACTIVO モデルを使うことで、最貧困層が「活動的に資産形成すること」ができるようになり、結果、外的ショック(治安流動化、自然災害、流行病等)が発生した場合でも、これに耐えることができるようになります。これにより、最貧困層は、家計・生計を安定的に維持又は強化できるようになります。
- ACTIVO モデルでは、最貧困層の家計管理、金融利用、生計向上活動(生業ビジネス等)を整合的に強化します。

計 2 回の第三国研修の実施

ホンジュラス金融機関がエルサルバドルとパラグアイの知見を学びました!!

本プロジェクトでは、最貧困層の貧困削減のため、民間金融機関を通じて、最貧困層に適した金融商品・サービスの提供を促しています。最貧困層・貧困層の生活・生計安定化にとって重要な金融商品としては、次のようなものがあります。

- ① 最貧困層が自然災害や治安悪化等の外的ショックから、資産・家計を守ることにできるようにするための口座預金
- ② 極貧状態から脱出しつつある最貧困層が、生業ビジネス拡充のために活用できる零細事業資金融資

これまでのホンジュラス民間金融機関の預金口座は、最低預入額等の点から、最貧困層にとって開設が難しいものでした。また、多くの銀行・信用組合は、零細事業用の融資はほとんど扱ってきませんでした。このような現況を変えていくため、ホンジュラス政府関係者及び銀行・信用組合関係者に、第三国研修に参加してもらいました。これまでにを行った計 2 回の第三国研修の概要は、以下の通りです。

- **第 1 回研修(2016 年 6 月)**: 南米パラグアイと隣国エルサルバドルに渡航しました。パラグアイ商業銀行における社会的業績管理、最貧困層向け金融商品開発、エルサルバドルの金融機関代理店網等の事例を学びました。



パラグアイのビジョン銀行における商品開発講義参加の様子

- **第 2 回研修(2017 年 10 月)**: 南米パラグアイの信用組合制度、小規模金融商品開発等を学びました。

新たな金融商品開発の取り組み

研修の学びを活かして、ホンジュラス金融機関が新たな金融商品提供を始めました!!

左に示した計 2 回の第三国研修の成果を踏まえて、ACTIVO モデル(本プロジェクト推奨の貧困削減モデル)参画金融機関では、様々な金融用品を開発し、提供するようになりました。以下、幾つか事例を紹介します。

- **ピナレホ信用組合**: 貧困層向けの新預金商品「私の機会」、新融資商品「融資支援」(無担保融資)の販売を開始しました。後者は、貧困層の零細ビジネス向けの 1 千レンプーラ(約 5 千円)からのマイクロ融資です。
- **タランガ信用組合**: 低所得者層の農商業向け融資を開始しました。融資事業全体の運営方針も見直し、返済遅延融資の割合を最近数か月間で 5%分少なくしました。

ホンジュラスは、日本やブラジル等の諸国とは異なり、金融セクターにおける信用組合の割合が高くなっています。このため、信用組合セクターが高度に発達したパラグアイの知見が役立っています。銀行との差別化を図りつつ、地域に根差した顧客中心主義により、ACTIVO モデル参画信用組合は、最貧困層・貧困層の金融アクセス促進に貢献しています。

注: ACTIVO 通信に掲載されている見解については、独立行政法人国際協力機構及びホンジュラス政府の公式見解と一致しないこともあります。